診療局：耳鼻咽喉科・頭頸部外科

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
主任部長兼頭頸部センター長	硲田　猛真
部長兼聴覚・言語支援センター長	中原　啓
医　長	宝上　竜也
医　長	野村　直孝

＜特色と概要＞

2024年度の当科の医師は硲田猛真主任部長、中原啓部長、宝上竜也医長、野村直孝医長の4名体制であった。またリハビリテーション部門の間三千夫・平野翠が言語聴覚士として診療に従事した。

当科は複数の耳鼻咽喉科医が常勤している施設としては大阪府下最南端であり、地域におけるEnd-Hospitalとしての役割を担う責任を負っている。

外来は週5日とも午前中に1診もしくは2診察体制で行っている。特殊外来として水曜日午後（第4週を除く）に超音波外来を開設し、頸部のECHO検査および細胞診を行っている。主に甲状腺疾患が中心だが、唾液腺疾患や頭頸部癌患者のfollowも行っている。

また、当科併設の「聴覚・言語支援センター」を発足させ、聴覚障がい・言語障がい等の治療を行っている（詳細は共同運営部門：聴覚・言語支援センターにて掲載）。

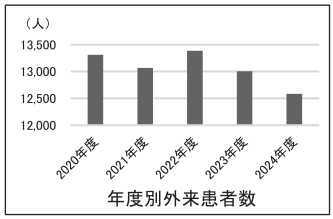
開設当初より我々は南泉州地域の頭頸部癌診療拠点を目指して活動している。「がん薬物療法専門医」である硲田を中心に放射線化学療法を主体とした臓器温存型の治療や再発癌に対するsecond-lineの化学療法を行い良好な成績を得ている一方で、進行癌に対する拡大手術にも対応している。

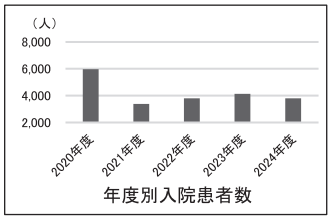
また大阪府耳鼻咽喉科医会の要請を受け耳鼻咽喉科二次後送病院ローテーションに参加し、耳鼻科疾患の時間外二次救急患者受入に対応している。実際に搬送されるのは年に数件だが、泉州医療圏の後送施設は限られており地域医療における重責を負っている。更に泉佐野泉南耳鼻咽喉科医会と連繋し、土曜日や時間外の救急患者受け入れも行っている。

＜実績＞

患者数（外来及び入院、延べ人数の推移）　（人）

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020年度	13,310	54.8	5,959	16.3
2021年度	13,066	54.0	3,378	9.3
2022年度	13,384	55.1	3,792	10.4
2023年度	13,002	53.5	4,128	11.3
2024年度	12,582	51.8	3,798	10.4





入院患者の疾患名と人数（主病名件数　上位50まで）
（期間2024/4/1-2025/3/31退院）

主病名（ICD10コード名）	ICD10	件数
慢性副鼻腔炎，詳細不明	J329	35
内分泌腺の性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞，甲状腺	D440	31
急性扁桃炎，詳細不明	J039	28
中耳真珠腫	H71	20
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞，口唇，口腔及び咽頭	D370	20
甲状腺の悪性新生物＜腫瘍＞	C73	17
扁桃周囲膿瘍	J36	14
扁桃肥大	J351	14
非化膿性中耳炎，詳細不明	H659	13
喉頭の悪性新生物＜腫瘍＞，喉頭，部位不明	C329	11
慢性扁桃炎	J350	11
舌背面，舌の境界部病巣	C029	9
アデノイド肥大を伴う扁桃肥大	J353	8
反復性及び持続性血尿，その他	N028	8
中耳炎，詳細不明	H669	7
その他の末梢性めまい＜眩暈（症）＞	H813	7
睡眠時無呼吸	G473	7
ベル＜Bell＞麻痺	G510	6
突発性難聴（特発性）	H912	6
リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞，頭部，顔面及び頚部リンパ節	C770	6
鼻中隔弯曲症	J342	5
外耳道真珠腫（症）	H604	5
中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞，喉頭	D380	5
処置に合併する出血及び血腫，他に分類されないもの	T810	5
喉頭のその他の疾患	J387	4
その他の慢性副鼻腔炎	J328	4
めまい＜眩暈＞感及びよろめき感	R42	4
限局性腫脹，腫瘤＜mass＞及び塊＜lump＞，頚部	R221	4
急性副鼻腔炎，詳細不明	J019	3
前庭機能障害，詳細不明	H819	3
非ホジキン＜non-Hodgkin＞リンパ腫，詳細不明	C859	3
中耳，呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞，その他の呼吸器	D385	3
限局性リンパ節腫大	R590	3
両側性感音難聴	H903	3
声帯及び喉頭のポリープ	J381	3
中咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞，中咽頭，部位不明	C109	3
鼻骨骨折；閉鎖性	S0220	2
その他及び部位不明確の悪性新生物＜腫瘍＞，頭部，顔面及び頚部	C760	2
その他及び部位不明の内分泌腺の良性新生物＜腫瘍＞，上皮小体＜副甲状腺＞	D351	2
損傷の続発・後遺症，部位の明示されないもの	T941	2
鼻の後天性変形	M950	2

主病名（ICD10コード名）	ICD10	件数
帯状疱疹，その他の神経系合併症を伴うもの	B022	2
ガンマヘルペスウイルス（性）単核症	B270	2
気管切開による機能障害	J950	2
下咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞，下咽頭，部位不明	C139	2
びまん性甲状腺腫を伴う甲状腺中毒症	E050	2
感音難聴，詳細不明	H905	2
急性喉頭咽頭炎	J060	2
アデノイド肥大	J352	2
鼻ポリープ，詳細不明	J339	1

検査治療数集計

診療明細名称	件数
鼓室形成術・鼓膜形成術	33
鼓室形成手術（耳小骨温存術）	13
鼓室形成手術（耳小骨再建術）	20
外耳道形成術・造設	9
外耳道形成手術	9
顔面神経減圧手術	2
顔面神経減圧手術（乳様突起経由）	2
人工内耳埋込手術	12
人工内耳植込術	12
耳瘻孔摘出術	3
先天性耳瘻管摘出術	3
鼓膜切開術	60
鼓膜切開術	60
鼓膜チューブ挿入術	58
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	58
内視鏡下副鼻腔手術	140
内視鏡下鼻・副鼻腔手術1型（副鼻腔自然口開窓術）	6
内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型（副鼻腔単洞手術）	9
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	56
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型（汎副鼻腔手術）	5
内視鏡下鼻腔手術1型（下鼻甲介手術）	33
内視鏡下鼻中隔手術1型（骨、軟骨手術）	26
内視鏡下鼻中隔手術2型（粘膜手術）	5
鼻中隔矯正術	1
鼻中隔矯正術	1
鼻茸切除術	4
鼻茸摘出術	4
鼻腔粘膜焼灼術	24
鼻腔粘膜焼灼術	24
口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術	144
アデノイド切除術	19
口蓋扁桃手術（摘出）	125
口腔・咽頭膿瘍切開術	3
咽後膿瘍切開術	3
唾石摘出術	7
唾石摘出術（一連につき）（表在性のもの）	7
直達鏡下喉頭微細手術	3
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡によるもの）	3
舌口腔咽頭良性腫瘍手術	7
口腔底腫瘍摘出術	2
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	3
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔によるもの）	2
甲状腺良性疾患手術	23
甲状腺部分切除術，甲状腺腫摘出術（片葉のみの場合）	19
甲状腺部分切除術，甲状腺腫摘出術（両葉の場合）	4
耳下腺良性疾患手術	16
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺深葉摘出術）	1
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	15
顎下腺良性疾患手術	4
顎下腺腫瘍摘出術	4
気管切開術	15
気管切開術	15
嚥下改善手術	2
嚥下機能手術（喉頭気管分離術）	2
リンパ節摘出術	23
リンパ節摘出術（長径3センチメートル以上）	11
リンパ節摘出術（長径3センチメートル未満）	12
頸部膿瘍手術	2
深頸部膿瘍切開術	2
喉頭下咽頭悪性腫瘍手術	1
下咽頭悪性腫瘍手術（頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む。）	1
甲状腺悪性腫瘍手術	25
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴うもの）	1
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	17
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘及び亜全摘）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	7
頸部郭清術	9
頸部郭清術（片側）	5
頸部郭清術併施加算（片側）	3
頸部郭清術併施加算（両側）	1
耳鼻咽喉異物摘出術	6
咽頭異物摘出術（複雑なもの）	6

2024年4月から2025年3月までの新規入院患者数は延べ3,798名、1日当たりの平均入院患者数は10.4名であった。

同期間の外来患者延べ数は12,582名、1日平均外来患者数は51.8名であった。

最新年度である2024年度における1年間の手術実績を上記に示す。当科は耳科手術、鼻科手術の割合が高い。これは府下でも有数の実績であり、人工内耳植込術、内視鏡下副鼻腔手術Ｖ型の各施設基準を満たしている。一方で頭頸部癌に対しては放射線化学療法を主体とした治療を行っているため癌手術はやや少ない傾向にある。また鼻科分野に関しては、手術加療だけではなく、難病指定となっている好酸球性副鼻腔炎に対する薬物療法（デュピルマブ）の使用も増えている。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

2024年度に関しては、頭頸部センターが立ち上がっており、耳鼻咽喉科領域および口腔外科領域の腫瘍病変に関して、これまで以上に積極的に診療していく次第である。口腔外科とも週に1度の合同カンファレンスを導入しており、お互いにこれまで以上に協力しながら治療ができる体制が整ってきている状況である。